

藤本伊三郎賞を 受賞して



田中 里奈

弘前大学大学院医学研究科

この度は、名誉ある藤本伊三郎賞を受賞させていただきま
して、大変光栄に存じております。青森県では2013年4月から
がん登録事業を弘前大学へ委託しており、私は事業委託開
始時に弘前大学へ就職し、以後がん登録データを活用した
研究に取り組んでおります。これまで研究を行ってこられたの
は、諸先生方、地域がん登録事業関係者の皆様のご指導を
賜りましたお陰と存じます。改めて、心より御礼申し上げます。

今回の受賞対象となった演題は、2017年10月にユトレヒト
(オランダ)で開催された第39回がん登録協学会でポスター
発表した「Association between income and inci-
dence rates among cervical cancer patients in
Aomori prefecture, Japan」です。本研究では全国がん登
録データベースから抽出した青森県の研究利用目的データ
を使用し、2010~2012年の青森県の子宮頸がんの罹患率
を市町村民所得別に比較し、報告しました。市町村民所得別
に子宮頸がんの年齢調整罹患率を比較すると、高所得者は
低所得者よりも1.5倍高くなっていました。診断時の年齢での
比較では、年齢に関わらず高所得者の方が低所得者よりも罹
患率は高くなっていました。また、診断時病期での年齢調整罹
患率の比較では、上皮内では高所得者は低所得者よりも1.9
倍高くなっていましたが、他の病期ではすべてほぼ同じくらい
でした。青森県内全域で子宮頸がん検診受診率に大きな差
はありませんでした。以上より、青森県内において高所得者と
低所得者では医療機関への通院状況が異なり、高所得者は
低所得者よりも早期に医療機関を受診している可能性が考
えられました。

最後になりますが、本研究を行うにあたり、これまで多大な
ご助言とご指導を賜りました諸先生方と日本がん登録協議会
の皆様へ深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みとし、今
後もより一層がん登録資料を活用した研究に邁進し、その成
果をがん対策の推進へ貢献できるよう日々精進して参りたい
と思います。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

藤本伊三郎賞を 受賞して



福井 敬祐

大阪国際がんセンター
がん対策センター

この度は、栄誉ある藤本伊三郎賞を受賞させていただき、
誠にありがとうございます。

私は、2016年の4月に現在の所属である大阪国際がんセ
ンター(旧:大阪府立成人病センター)への就職をきっかけと
して、がん登録に関する研究を開始いたしました。がん登録の
研究および現職に従事してからの期間はまだまだ浅い未熟
者でございますが、大先輩である藤本伊三郎先生の名を冠し
た賞をいただけたことは、大変有難いことでございます。改め
て、これまでご指導いただいた諸先輩・先生方、地域がん登
録事業の関係者皆様へ感謝申し上げます。

今回、受賞の対象となりましたのは2017年10月にオランダ
のユトレヒトで開催された第39回国際がん登録協議会学術
集会の口頭発表である「A local cohort detection for
cancer incidence and mortality in Osaka, Japan
using varying coefficient model」です。がん罹患や死亡
の経年変動を年齢効果・時代効果・出生コホート効果の3要
因に分解するAge-Period-Cohort分析手法として、変化係
数モデルを用いた新規手法を用いて大阪府のがん登録デー
タを分析し、その結果を報告いたしました。新規手法は統計
的・自動的にコホート効果の存在や大きさを検出することが
でき、実際に、肝臓がんや肺がんなどのような既存の疫学研
究ですでにその存在が認められている出生コホート効果を適
切に検出・評価することができました。がんの経時変動要因
の把握は、がん対策の適切な評価に資することができること
にもハイリスク集団の特定などへの活用も期待することがで
きます。限りある資源の中で有効ながん対策の立案・評価に
貢献できるよう、より一層精進していきたいと思っております。

最後となりましたが、本研究を行うにあたり、日々ご指導を
賜りました諸先生方と日本がん登録協議会の方々に感謝申し
上げます。今回の受賞を励みに、より有効ながん登録デー
タの活用を通してがん対策へ貢献して参りたい所存ございま
す。

今後ともどうぞ宜しく願いいたします。